

「広報つるがしま」

昭和34年8月に創刊され、今月で999号を迎えた「広報つるがしま」。これを記念して、村から町へ、町から市へと発展してきた鶴ヶ島を紹介します。

問合せ 市政情報課広報広聴担当

純農村地帯として栄えてきた鶴ヶ島は、人口の増加も加わり昭和41年4月1日に町制を施行しました。

その後、土地区画整理事業を中心としたまちづくりと、道路網や公共施設の整備などを行ってきました。首都圏からの通勤・通学圏であることから人口は急増し、平成3年9月1日には鶴ヶ島市として市制を施行しました。

現在の鶴ヶ島市は、関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道が交差し、両インターチェンジがある交通の要衝であることや、東武東上線によって都心と結ばれたベッドタウンという特性の中で、自然と賑わいが調和した都市へと成長しています。

- 昭和42年 埼玉国体旗・炬火リレー町内通過
- 昭和46年 鶴ヶ島・坂戸に給水が開始
- 昭和48年 県道新熊谷入間線(現国道407号)開通

「広報つるがしま」誕生



創刊号(昭和34年8月10日)

巻頭に、「よりよき広報紙とするため編集その他御気付きの点、助言を賜りますようお願い申し上げます」と、当時の村長のあいさつが掲載されています。

で見る 鶴ヶ島

昭和30年~40年代

「鶴ヶ島町」誕生

46号(昭和41年4月28日)
鶴ヶ島は、昭和41年4月1日に村から町になりました。鶴ヶ島第一小学校音楽堂で行われた町制施行祝賀式の様子が掲載されています。表紙は、開設した鶴ヶ島保育所です。



村章決定

39号(昭和40年5月20日)
表紙は、全国からの応募作品383点から選ばれた村章。村の力強い飛躍と発展、住民の円満・融和を表現したものです。候補作品も掲載されています。



高倉獅子舞と脚折雨乞の紹介



33号(昭和39年11月15日) 30号(昭和39年8月20日)
現在でも継承されている2つの伝統行事が、初めて広報に掲載されたのは、東京オリンピックが行われた昭和39年のことでした。8月号で紹介された脚折雨乞は、昭和24年以来15年ぶりに行われました。また、11月号で紹介された高倉獅子舞は、当時は11月8日から10日にかけて3日間行われていたことが伝えられています。

関越自動車道開通



156号(昭和50年8月1日)
関越自動車道が、東松山まで開通。鶴ヶ島インターチェンジが開設され、東京までノンストップで行けるようになりました。

人口急増。小中学校の新設

212号(昭和53年4月1日)
鶴ヶ島で3校目の小学校となる新町小学校が開校しました。この後、昭和60年までに、小学校が5校、中学校が4校新設され、13校となりました。



町の花と木が決まる



266号(昭和55年7月1日)
町の花は「ツツジ」、木は「マツ」が選ばれました。選定の経過や理由のほか、464人からのアンケート結果も掲載されています。

「広報つるがしま」のバックナンバーは、中央図書館で閲覧できます。
60年近く鶴ヶ島の様子を伝えてきた広報紙。今回ご紹介した記事以外にも、皆さんにとって懐かしい記事がきつとあるはず。ぜひご覧ください。

今では、全戸配布している広報紙に加え、市のホームページや、スマートフォンのアプリからも広報紙を読んでいます。必要な情報や大切な行政施策を伝える役割を持つ広報紙。これからも愛読ください。

平成

昭和50年代

- 平成 3年 地球にやさしいリサイクル都市宣言
- 平成 8年 市内循環バス「ふれあい号」運行開始
- 平成25年 市道758号線(共栄一本松線)、若葉駅に直結

- 昭和53年 学校給食センター業務開始
- 昭和54年 東武東上線若葉駅開設
- 昭和58年 東武東上線鶴ヶ島駅西口開設

若葉駅西口オープン

823号(平成16年3月1日)
昭和54年開設の若葉駅に西口がオープン。4ページにわたり駅舎や駅前広場の紹介、自転車駐車場の利用方法などが詳細に掲載されています。



圏央道開通記念マラソン



643号(平成8年4月1日)
表紙は、首都圏中央連絡自動車道の開通(鶴ヶ島-青梅間)を記念して行われたマラソン大会の様子。道を埋め尽くすランナー。

「鶴ヶ島市」誕生

534号(平成3年9月1日)
9月1日に市制施行し、鶴ヶ島市が誕生しました。「深呼吸のしたい街。つるがしま」のイメージマークも紹介しています。特集では、町村制を施行した昭和41年から25年のあゆみや、戦後の開拓の歴史がつつられています。

